

第 88 回 発電用設備規格委員会 議事録

1. 日 時：2018 年 12 月 20 日（木） 10:00～17:45

2. 場 所：日本機械学会 第 1 会議室

3. 出席者（委員 24 名中、出席者 24 名（委員代理含む）；敬称略）：

【委 員】

加口委員長（三菱重工）、高橋副委員長（電中研）、鈴木幹事（中部電力）、波木井（東電）、宮口（AM、IHI）、島川（AM、川崎重工）、渡部（HSB ジャパン）、田中（日本製鋼所）、永田（敬）（三菱FBR）、堂崎（日本原電）、久恒（日立GE）、藤木（東芝ESS）、中澤（火原協）、都築（電気協会）、押部（発電技検）、酒井（AM、横国大）、日下（関電）、木村（NIMS）、松永（東芝ESS）、森下（PM、JAEA）

【委員代理】

永田（日立GE：金子委員代理）、飯田（東電：三原火専長代理）、朝田（三菱重工：寺井委員代理）、杉江（原安進：田村委員代理）、佐藤（PM、川崎重工：島川委員代理）、高木（PM、東電：酒井委員代理）、廣瀬（PM、IHI：宮口委員代理）

【欠 席】

なし

【アドバイザー】

なし

【常時参加者】

なし

【オブザーバ】

北条（AM、三菱重工）、佐伯（AM、東芝ESS）、清水（AM、日立GE）、廣瀬（AM、IHI）、山田（PM、中部電力）、鬼澤（PM、JAEA）、角館（QST）、寺田（AM、東芝ESS）、萩原（AM、東芝ESS）、倉富（PM、東電FP）、齋藤（PM、東芝ESS）、市川（PM、東芝ESS）

【事務局】

高柳、原、澤田石、渡邊

4. 配布資料

88-0：第 88 回 発電用設備規格委員会議事次第案

88-1：第 87 回 発電用設備規格委員会議事録案

88-2：発電用設備規格委員会名簿案

88-3：各専門委員会名簿案

88-4：第 77 回幹事会議事メモ

88-5：投票結果

88-5-2：核融合専門委員会次期委員長選任投票結果

88-6-1：公衆審査結果

88-6-2：発電用設備規格に関する質問受付及び回答状況

88-7：火力専門委員会報告

88-8：原子力専門委員会報告

88-9：材料専門委員会報告

88-10：核融合専門委員会報告

88-11-1：学協会協議会等状況報告

88-11-2：維持規格に対する原子力規制庁技術評価に関する報告

88-11-3：BPV Committee Sec.XI JSME/ASME Joint Task Group for System Based Code

88-11-3-1：ASME Code week @ Atlanta における SDO Convergence Board Meeting 報告

88-11-3-2：TG on Severe Accident Management

88-11-4：誤記チェック対応報告
 88-11-5-1：金属キャスクバスケット用アルミニウム合金検討タスク状況報告
 88-11-5-2：金属キャスク構造規格 材料規格の妥当性の確認結果に対する意見伺い
 88-11-6：竜巻影響評価ガイドラインタスクの廃止提案
 88-11-7：適用年版管理用正誤表リスト作成内規案専門委員会書面投票結果
 88-11-8：(欠 番)
 88-11-9：規格策定における誤記等チェックリストの導入について
 88-11-10-1：発電用設備規格委員会運営規約 改定案の確認依頼
 88-11-10-2：誤記訂正要領改訂に伴う規格委員会運営規約改定案
 88-11-10-3：書面投票意見対応システムの運用に伴う運営規約の見直しについて
 88-11-11：事例規格の出版に関する特別規定（内規）改定
 88-11-12：原専作成 委員会資料の取扱い（内規）改定
 88-11-13：「発電用設備規格関連の材料事象に関する解説」の合本による出版について
 88-11-14：タスクグループ活動状況の確認
 88-11-15：各会議後のフォローアップについて
 88-12-1：発電用火力設備規格詳細規定201x年版改訂案 第Ⅶ章の書面投票実施に関する提案
 88-12-2：詳細規定 第Ⅶ章 溶接施工法・溶接技量 201X 年改訂案 新旧比較表
 88-12-3：火力専門委員会書面投票 No. 77（発電用火力設備規格詳細規定 第Ⅶ章 溶接施工法・溶接技量 改訂案）投票」意見と対応案
 88-13：材料規格に係る審議項目一覧
 88-13-1：材料規格 2019 年追補記載の適正化改定（案）
 88-13-2：材料規格 2018 年追補提案(その3)原専委投票意見回答案に対するメール審議結果に対する対応案
 88-13-3：材料規格へのASME材の取り込みに関するご意見伺いに対する投票結果
 88-14：高温規格分科会案件
 88-14-1：「改良 9Cr-1Mo 鋼時間依存型許容値の 50 万時間までの拡張」、「316FR 鋼時間依存型許容値の 50 万時間までの拡張」の提案
 88-14-2：改良 9Cr-1Mo 鋼時間依存型許容値の 50 万時間までの拡張
 88-14-3：316FR 鋼 時間依存型許容値の 50 万時間までの拡張
 88-14-4：【参考資料】材料専門委員会からのレビュー回答
 88-15：原子力専門委員会 設計・建設分科会案件
 88-15-1：DC18-41/DC16-46 設計・建設規格 2012 年版全文チェック容器分対応他正誤表
 88-15-2-1：「設計・建設規格 第Ⅰ編」2019 年追補改定案(その 1)の提案
 88-15-2-2：「設計・建設規格」2019 年追補規格改定案件(その 1)一覧表
 88-15-3：DC14-002：「支持構造物設計への「極限解析手法」規定の追加」提案
 88-15-4：設計・建規格への地震荷重に対する許容基準取り込み方針提案
 88-15-5-1：「設計・建設規格 第Ⅰ編」2019 年追補改定案（その 2）の提案
 88-15-5-2：「設計・建設規格」2019 年追補規格改定案件(その 2)一覧表
 88-16-1：溶接規格 2019 年追補案（その 1）提案項目一覧
 88-16-2：溶接規格 2019 年追補（案）（その 2）提案項目一覧
 88-17：補修章の誤記の修正
 88-18：(欠 番)
 88-19-1：弾塑性解析に基づく S クラス配管耐震設計代替規定案 審議提案
 88-19-2：配管耐震事例規格 規格委員会 2 次書面投票 意見・回答一覧
 88-19-3：NC-CC-008 設計・建設規格 事例規格 弾塑性応答解析に基づく耐震 S クラス配管の耐震設計に関する代替規定
 88-19-4：設計・建設規格 事例規格 弾塑性応答解析に基づく耐震 S クラス配管の耐震設計に関する代

替規定及び事例規格集 2018年 改定1 に対する公衆審査計画

88-19-5：設計・建設規格 第I編 事例規格集2018年追補改定提案

88-20：(欠 番)

88-21-2-1：規格委書面投票No. 409-投票No. 1(新規・追加。修正分) の書面投票意見に対する修正回答案

88-21-2-2：超伝導マグネット構造規格(2017 年版)公衆審査版(最終版) の意見追加・修正部分(HIP 関連)の英訳案比較表 コメント反映版

88-21-2-3：超伝導マグネット構造規格(2017 年版)公衆審査版(最終版) の新規追加・修正部分(HIP 関連)の英訳案クリーン版

88-21-3-1：規格委書面投票No. 409-投票No. 2(編集上の修正分) の書面投票意見に対する修正回答案

88-21-3-2：超伝導マグネット構造規格(2017 年版)公衆審査版(最終版) の編集上の修正に関わる部分の英訳案比較表コメント反映版(修正箇所抜粋)

88-21-3-3：超伝導マグネット構造規格(2017 年版)公衆審査版(最終版) の編集上の修正部分の英訳案クリーン版(修正箇所抜粋)

5. 議事内容

(1) 開 会

加口委員長より開会が宣言され、出席者の自己紹介が行われた。

(2) 議事次第・配付資料 確認

議事次第及び配付資料の確認が行われた。

(3) 前回議事録の確認【資料88-1】

事務局より前回議事録(案) が説明された。脱字一か所を修正の上、承認された。

(4) 規格委員会及び各専門委員会の委員の承認等【資料88-2,3】

事務局から以下のとおり規格委員会及び各専門委員会委員の再任、退任、新任候補等が報告された。事務局、オブザーバが退出後、委員の再任及び新任の承認等が審議され、承認された。

➤ 規格委員会(委員の最終承認は標準センター運営・企画委員会による)

[再任] 波木井委員(東京電力)

[退任] —

[新任] 町田委員(テプコシステムズ)

➤ 火力専門委員会

[再任] 木村委員(東芝 ESS)

[退任] —

[新任] —

➤ 原子力専門委員会

[再任] 市川委員(中部プラントサービス)

[退任] 町田委員(テプコシステムズ)

[新任] 吉田委員(テプコシステムズ)

➤ 材料専門委員会

[再任] 木村委員長(NIMS)、山田副委員長(中部電力)、高橋由委員(電中研)、浅山委員(JAEA)、朝田委員(三菱重工)、斎藤委員(三菱重工)、三木委員(日本製鋼)

[退任] —

[新任] 野村委員(IHI)、山崎委員(千葉大学)

—

➤ 核融合専門委員会

[再任] —

[退任] 高橋委員(電中研)、鈴木哲委員(中部電力)

[新任] 鈴木隆委員(日立)、中村委員(IHI)

(5) 発電用設備規格委員会活動状況報告

(5-1) 規格委員会幹事会報告【資料 88-4】

鈴木幹事より、11/7 に開催された第 77 回規格委員会幹事会の結果について報告された。内容は以下のとおり。

- ① 三学協会協議会の活動状況：新規エンドース希望について電連との調整を継続中。JSME からの提案は再処理関係のみ。電連のエンドース希望には現状未制定で制定までに時間がかかりそうな規格が多くある。現時点で制定しているのは再処理関連と議論が予想される耐震関係のみ。
- ② 規格技術評価の状況：NRA から、非破壊検査の考え方など 2 点の宿題及び資料に対するコメント依頼が出され、維持規格分科会齋藤委員から回答案等の説明があった。維持規格における原子炉圧力容器の溶接継手の非破壊試験の試験程度の規定を、10 年で 7.5% から諸外国並みの 100% に改定していない理由については、内容をブラッシュアップし、規格委幹事会メンバーで確認することとした。
- ③ ペーパーレス化提案：事務局より規格委員会でのペーパーレス化の提案説明があり、必要な PC 台数を把握するための委員アンケートを行うことが確認された。
- ④ 次回の規格委員会幹事会は、2019/2/7 に開催予定。

(5-2) 書面投票結果【資料 88-5-1, 2】

事務局より規格委員会と各専門委員会の書面投票結果について報告された。

また、核融合専門委員会の次期委員長選任投票の結果、橋爪委員（東北大学）が次期委員長に選任されたことが報告された。

(5-3) 公衆審査報告【資料 88-6-1】

事務局より、規格案の公衆審査結果について以下のとおり報告が行われた。

- 発電用設備規格 維持規格 2018 年追補及び事例規格集(案)
2018/10/19～2018/11/19 の期間で意見受付を実施した。御意見なし。
- 発電用原子力設備規格 材料規格 2018 年追補(案)
2018/10/19～2018/11/19 の期間で意見受付を実施した。御意見なし。
- 発電用原子力設備規格 設計・建設規格 第Ⅱ編 高速炉規格 2018 年追補(案)
2018/11/19～2018/12/19 の期間で意見受付を実施した。御意見なし。

(5-4) 質問受付回答状況【資料 88-6-2】

事務局より発電用原子力設備規格に関する質問受付・回答状況について報告が行われた。内容は以下のとおり。

<新規受付>

- ① 設計・建設規格 第Ⅰ編 軽水炉規格（2005 年版）付録材料図表 JIS G3466（一般構造用角形鋼管）等の年版読替（回答済）
- ② 材料規格（2012 年版）付録材料図表 JIS G3466（一般構造用角形鋼管）等の年版読替（回答済）

<継 続>

- ① 設計・建設規格 第Ⅰ編 軽水炉規格（2005 年版）クラス 2 配管継手適合年版の読替（回答済）
- ② 設計・建設規格 第Ⅰ編 軽水炉規格（2005 年版）付録材料図表 JIS G3459（配管用ステンレス鋼鋼管）の年版読替（回答済）
- ③ 維持規格 2008 年版 フランジネジ穴 ネジ部の体積試験範囲の解釈（回答済）

(5-5) 火力専門委員会報告【資料 88-7】

火力専門委員会 飯田副委員長より、11/26 に開催された火力専門委員会の結果を中心に活動状況が報告された。内容は以下のとおり。

- ① 新材料 Alloy141 を発電用火力設備規格にて規格化する提案があり承認された。また、材料仕様及び許容引張強度等の許容値の策定を材料専門委員会に依頼することが承認された。
- ② 規格委員会書面投票 No. 399（第Ⅵ章 非破壊検査 改訂提案）、No. 410（第Ⅱ章 材料改訂提案）について意見対応を継続中である。

- ③ 詳細規定第Ⅶ章 溶接施工法・溶接技量の改訂案について火専書面投票 No. 77 の意見対応に伴う修正について審議を行い、編集上の修正または軽微な技術的な修正として承認した。本日、規格委員会にて書面投票実施の審議をお願いする。
- ④ 次回火力専門委員会は、2019/3/1 に開催の予定。
主な議論は以下のとおり。
- Alloy 141 とはどんな材料か？⇒ニッケルベースの耐熱合金である。

(5-6) 原子力専門委員会報告【資料 88-8】

原子力専門委員会 松永委員長より、12/3 に開催された第 96 回原子力専門委員会の結果を中心に原子力専門委員会の活動状況について報告があった。内容は以下のとおり。

- ① 適用年版管理用正誤表リスト作成内規提案について原子力専門委員会の書面投票及び他の専門委員会のご意見伺い書面投票の意見対応について審議。継続中の材専投票の意見対応に対する原専メール審議可決を条件に、修正案に対する規格委員会書面投票を本日提案する。
- ② 「竜巻影響評価ガイドライン策定タスクの廃止と分科会設置」「目標信頼性検討タスク（仮称）設置」について原子力専門書面投票を実施中。規格委員会傘下の竜巻影響評価ガイドラインタスクについて、本日、タスク廃止に関する規格委員会書面投票の実施をご提案する。
- ③ 金属キャスク構造規格について、貯蔵分科会より改訂方針案の提案があり、材専書面投票を実施中である。特有材料規格値のレビューに関する材料専門委員会への再レビューについては規格委員会 3 役と相談の上、規格委員長名で材料専門委員会への依頼を行ったが、材料専門委員会での意見を踏まえて修正案を準備したので本日も説明したい。
- ④ 設計・建設規格、材料規格、溶接規格、高速炉規格について 2019 年追補案、正誤表発行等の審議を実施した。本日午後、規格委員会での審議をお願いする。
- ⑤ 次回 第 97 回原子力専門委員会は 2019/3/6 に開催の予定。

報告後、宮口委員より目標信頼性タスク設置に関連してジョイントタスク（6-3-③参照）に関しては「日本機械学会の海外展開の指針」に基づく理事会報告・承認が必要であり、そのための規格委員会としての書式も決まっているとの指摘があり、合わせて、理事会報告内容の規格委員会としての審議・確認、理事会報告・承認および ASME への提案が日程的に（シーケンシャルに）成立するのか？との質問（問題提起）があった。協議の結果、次回規格委員会での審議では理事会報告・承認が次々回理事会となり ASME への回答が間に合わなくなるので、その場合は 2019/1/30 の標準・規格センター会議経由で理事会の承認を得るための対応を規格委員会 3 役に委ねることが決議された。

(5-7) 材料専門委員会報告【資料 88-9】

材料専門委員会 木村委員長より、12/12 に開催された材料専門委員会の結果を中心に活動状況について報告があった。内容は以下のとおり。

- ① 新規材料(Alloy141)の規格化申請に伴って火力専門委員会から依頼された材料仕様及び許容値の策定検討を受けることを承認し、新材料規格化分科会に検討開始を指示した。
- ② 規格委員会より「金属キャスク独自材料規格の原専資料に関するご意見伺い」について説明を受けた。これに対して、第 87 回発電用設備規格委員会で承認された「原専より材専に再レビューを依頼」と異なるとの疑義が出された。また、原専からの内容説明に基づいてレビューを実施すべきであるとの意見があった。本件については後程協議させて頂く予定である。
- ③ 次回 第 42 回専門委員会は 2019/3/8 に開催の予定。

(5-8) 核融合専門委員会報告【資料 88-10】

核融合専門委員会 宮口委員長より、核融合専門委員会の活動状況について報告された。内容は以下のとおり。

- ① 次期委員長に東北大学 橋爪委員が選任された。

- ② HIP 拡散接合部機械特性試験について、疲労試験結果は全て規格で定めた設計線図（HIP 拡散接合による機械強度低下分の補正後の値）より高い強度を示したことが報告された。
- ③ 規格委員会書面投票 No. 409（マグネット構造規格英訳版、「HIP 関連の新規追加」とそれ以外の「編集上の修正分」の2件を含む）での意見対応案について承認した。本日規格委員会での審議をお願いする。
- ④ 次回 第63回核融合専門委員会は2019/3/8開催の予定。

(6) 発電用設備規格委員会運営に関する報告／審議

【報告事項】

(6-1) 原子力関連学協会における活動状況【資料88-11-1】

鈴木幹事より関連学協会における活動状況について報告があった。内容は以下のとおり。

- ① 新規エンドース（技術評価）の優先順位について（添付1,2参照）
 - 10/16「検査制度見直しに係る規格類意見交換会」が、各学協会、電事連の間で意見交換が実施された。電連から提示された優先案（順不同）は以下の8分野。
 - ・放射性廃棄物関係（原子力学会）
 - ・廃止措置関係（原子力学会）
 - ・照射脆化関係（電気協会）
 - ・サイクル施設関係（機械学会）
 - ・耐震関係（電気協会）
 - ・津波関係（同上）
 - ・品証関係（同上）
 - ・燃料関係（原子力学会、電気協会）
 - 12/11 規格協議会にて以下の意見あり。
 - ・照射脆化関係に3つのJEACが出ているが、全体として体系を考える必要がある。脆化予測式について溶接協会での試験結果を待ちとされているが、電気協会にて全体のハンドリングが必要。
 - ・耐震JEACについては、全体の物量も多く、どこを評価してもらうか整理が必要。リスクの観点が入っていないのも課題。
- ② 規格高度化ワーキングについて（添付3参照）

本ワーキングはIAEA等の規格体系と国内の規格体系とのギャップ分析を行い、学協会整備計画へ追加すべき項目の抽出等を行っている。保守管理、耐震関係について、リスク評価が活用されていないことが課題として挙げられている。3月に報告がまとまる見込み。
- ③ ピアレビューについて（添付4参照）
 - WGにおいてピアレビュー運営要領が検討されており、来年初めまでに各学協会において確認・意見出しを行う。骨子は以下のとおり。
 - ・都度、ピアレビューチーム（3名程度）を結成する。
 - ・チームは計画・実施・報告書の作成を行い、ピアレビューを受ける組織はホスト組織としてチームの要請に応じた資料準備等の対応を行う。
 - ・ピアレビューの5か年計画を作成する。当面、組織ごとに1回/3年を想定。
 - 第一回テーマ案は「公開程度」、「誤記対応」の予定。
- ④ 原子力関連学協会規格類協議会運営要綱の見直し（添付5,6参照）

運営要綱に見直しについて、各学協会からの意見を確認たうえて、来年2月の協議会幹事会にて変更案を提出する予定。論点は以下のとおり。

 - ・決定事項の範囲、位置づけ等について
 - ・規格類策定活動計画の決定における規格策定団体以外の組織の関与のしかた（規制庁は常時参加者として参加予定）
 - ・議長は委員の互選とし、再任を可とする

協議の結果、「ピアレビュー要領案」及び「原子力関連学協会規格類協議会運営要綱の見直し」につ

いてはメール審議による確認とご意見伺いを実施することが決議された。

(6-2) 規格の技術評価の状況【資料 88-11-2】

2年ぶりに再開された維持規格の技術評価について高橋副委員長より報告があった。内容は以下のとおり。

① 第7回維持規格技術評価検討チーム会合（2018. 10. 26 開催）

- 今回の論点は PRV/RV 溶接継手の UT 試験程度が諸外国に比べ低い点である
- 機械学会に対し、以下の2項目の質問があり、次回回答することとまった。

Q 1 : 維持規格において、PRV/RV 溶接継手の UT 試験程度を「10 年で 7.5%」から諸外国並みの「10 年で 100%」に改定していない理由

Q 2 : 最新技術の取り込みの考え方

② 第8回維持規格技術評価検討チーム会合（2018. 12. 6 開催）

- 機械学会から前回質問について回答した。RPV/RV 試験程度については、一般部は 7.5%であるが、損傷可能性の高い異種金属継手部等は 100%としていること、米国及び国内の状況から試験程度を直ちに 100%に見直す必要はないと考える旨を説明した。
- 原子力機構より、PRV/RV 溶接継手について確率論的破壊力学 (PFM) による感度解析結果が説明された。検査頻度を 0%, 7.5%, 100%、運転期間 10 年、30 年のケースに対し、破損確率はいずれも 10^{-9} /RY 以下であるが、検査頻度 7.5%と 100%では 2 桁程度の差が生じた。
- NRA から維持規格の技術評価の主な論点と評価書案が説明され、要望事項が提示された。機械学会関連では、破壊力学評価を行わない機器、部材（ポンプ、弁、ボルト等）における注目部位と試験方法についての説明を次回会合で行うこととなった。

③ 第9回維持規格技術評価検討チーム会合（2018. 12. 18 開催）

- 機械学会から破壊力学評価を行わない機器、部材における注目部位と試験方法について説明を実施した。弁・ポンプについてはこれまでの稼働実績、T によるサイジングの困難さや容器・配管の様な欠陥評価法が未整備の旨説明し、評価書もこれらを踏まえる方向となった。
- 機械学会から提出した「維持規格に対する規制庁技術評価書案に対する見解」に関連して、評価章で 2 点（クラス 2、3 配管の破壊靱性は配管の形状で靱性が低下しているのではなく、材料特性によるもので維持規格の R/t 制限は問題ない。矩形亀裂形状に対する応力拡大係数式の使用によるスクリーニングクライテリアの問題点。）、検査章で 1 点（クラス 2 機器の非破壊試験免除範囲）について評価書案への反論を説明し、規制庁で検討を続けることが了解された。

④ 今後の予定

- 技術評価検討チーム会合は第9回で終了
- 会合での意見や提出されたコメントを踏まえて修正した評価書を規制庁から規制委員会に提出し、公衆審査が実施される

(6-3) ASME Code Meeting の報告【資料 88-11-3】

波木井委員及び原子力専門委員会 永田委員より、アトランタで開催された ASME Code Meeting について、以下の報告があった。

① SDO Convergence Board Meeting (11/12 開催)

- 今回は SDO として JSME、ASME、AFCEN、SNERDI (中国)、チェコが参加した。
- アクションアイテムとして下記を確認した。

-ロシアからの参加者をフォローする。

-WNA CORDEL からは次回（来年 2 月 @Costa Mesa）参加予定。

-来年の PVP @ San Antonio でのパネルセッションを計画する。6 カ国（日、米、仏、韓、中、チェコ）に声をかける。

- 新たな課題として下記 2 件の提案あり；

-核融合炉に関する規格

-弾性応力許容値に関する規格比較

② Task Group SA Management (11/12 開催) : ASME-JSME 協業について議論の内容を記す。

➤ 現状認識

SA 時格納容器構造健全性評価ガイドラインの最後となる BWR RCCV に対するガイドラインが先月 (10 月) に出版されたことからこれまでの本タスクの成果を再確認した。

➤ 今後 5 年間の ASME/JSME の協業計画

- ・新型非軽水炉の許認可のための技術的要求の高度化

Southern Company 主導、DOE 出資で Licensing Modernization Project (LMP) が行われた

- ・S/N 曲線からの脱却

Ke 係数を合理化しても S/N 曲線ベースの評価では効果は限定的であるので、背応力ベースの評価に期待。

- ・Sec. III と Sec. XI の乖離の是正

Sec. III は ” Component Code ” に止まろうとしているが Sec. XI は ” System Code ” を志向し Risk Informed の適用が見られる。Component Design はシステム全体を見ておらず、Sec. VIII Div. 2 Part 5 のように柔軟な設計ルールが必要だが Sec. III Committee の反応が懸念される。

③ ASME/JSME Joint Group for System Based Code Meeting(11/14 開催)

- 上部組織である Special Working Group on Reliability Integrity Management (RIM) は、主として SMR を想定しつつ、炉型を問わず (Technology Neutral と呼称) 適用可能な維持規格 (Section XI, Division 2) の開発を行っており、条文案の Section XI 委員会上程に伴い、Subgroup に改組 (強化) された。これに伴い下部組織についても改組が検討されている。

- 本タスクの後継組織の名称を 「ASME/JSME Joint Working Group on RIM Process and System Based Code」とし、目標信頼度の設定等の RIM の主要規定の開発・整備に加え、システム化規格に基づく設計と維持の連携を所掌することが合意された。また、当面の優先課題として、目標信頼性の設定 (規定の詳細化及び解説資料の整備等) が挙げられている。

- RIM の原型は、EPRI 法の RI-ISI 開発に携わった Karl Fleming 氏が枠組みをつくった HTGR 向け RI-ISI 概念であるが、Technology Neutral として完成され、DOE と Southern Nuclear が共同で推進する将来炉のための Licensing Modernization Project にも密接に関係しており、次期高速炉にも適用できる。いる。また、NRC からの R. G. 1. 174 との適合性に関する数多くのコメントやその対応等の根幹的な議論が交わされており RIDM の導入が議論されつつある我が国にとって極めて重要である。

- RIM 開発過程で常に意識された検査不可範囲の合理的な補償措置は、軽水炉にとっても参考になる。

(6-4) 誤記対応の状況【資料 88-11-4】

原子力専門委員会 永田委員より誤記対応として、第 3 段階調査 (全文チェック) の進捗状況及び今後の対応方針について説明があった。内容は以下のとおり。

- 全文チェックの状況 : 三菱重工担当分に 1-2 か月の遅れがあるが、日立 GE 分は計画通り進捗中。予定された全文チェックを今年度で完了する。
- 今後の対応 : 企業側のスタッフ確保の問題から、全文チェックの継続は難しい状況である。チェックリストの活用など、規格策定段階の上流側チェックに重点を置くことを推奨する。全文チェックの再開には事務局スタッフの増員などの手当てが必要である。

(6-5) 金属キャスク材料の検討

(6-5-1) アルミニウム合金検討タスクの進捗報告【資料 88-11-5-1】

波木井委員よりアルミ合金タスクの進捗状況について報告があった。内容は以下のとおり。

- 昨年 7 月 25 日開催の第 16 回以降、約 1 年中断していたが、第 17 回が 6 月 29 日に、第 18 回が 12

月6日に開催された。

- バスケット材料としてアルミニウム合金及びボロン添加アルミニウム合金を使用する場合の規程案（ご意見伺いに対する対応案について一通りの議論が為された。
- ステップ1（実験室ベースの製造で作成されたアルミ合金による各種試験）が終了し、ステップ2（より大きな産業用規模の製造での各種試験）が開始され、ステップ2の幾つかの結果に対してステップ1の結果と比較され、概ね整合していることが確認された。
- 今後の工程：①事業者の電共研が2020年度末迄継続 ②具体的な事例規格案が2019年度末以降に議論される予定

(6-5-3) 金属キャスク特有材料のレビューに関する報告【資料88-11-5-2】

原子力専門委員会 松永委員長より、原専で作成した金属キャスク特有材料レビューに関する規制庁向け報告案について材料専門委員会に再レビューを依頼する件について説明が行われた。内容は以下のとおり。

- ① 依頼状の発信者は、材料専門委員会の意見を考慮し、第87回規格委員会の決議に沿って規格委員長から原専長に見直す。
- ② レビューの視点は、規制庁への報告という目的は除外して、技術的評価の妥当性に絞る
主な意見、議論は以下のとおり。
 - 材料専門委員会で依頼内容について直接ご説明を頂きたい ➡ 原子力専門委員会にはキャスクの専門家がいないので材専への説明に何うのは貯蔵分科会メンバーでもよいのか ➡ 技術的中身をご存知の方に来て頂きたいのでそれがよいと思う
 - 技術的評価の対象項目を箇条書きでリストアップして頂きたい
 - 規格の改訂提案は今回の審議案件には出ていないが検討はどんな状況か？ ➡ 先の原子力専門委員会にて貯蔵分科会より固有材料規格の改訂方針が提案され、原専でのメール審議を実施中である
 - 固有材料の問題でキャスクの構造規格本体の見なおしが10年以上行われていないことがむしろ問題ではないか？ ➡ 材料以外の構造規格部分の見直し検討は分科会にて別途進めている

【審議事項・その他】

(6-6) 竜巻影響評価ガイドラインタスクの廃止提案【資料88-11-6】

寺田、荻原タスク委員より、竜巻影響評価ガイドラインタスクの廃止提案について説明が行われた。内容は以下のとおり。

- ① ガイドラインの制定が完了し、本タスクの設置目的は達成された。
- ② 今後の規格の保守については、原子力専門委員会に新たな分科会を設置して対応する。
- ③ 本日は、規格委員会傘下の本タスクの廃止について、規格委員会書面投票の実施をご提案する。
協議の結果、挙手による採決を実施し、全員一致で書面投票の実施が承認された。

(6-7) 適用年版管理用正誤表リスト作成内規案 【資料88-11-7】

永田原専門委員より、適用年版管理用正誤表リスト作成内規案に関する各専門委員会での審議状況及び規格委員会での書面投票の提案について説明があった。内容は以下のとおり。

- ① 原専投票No.512、火専投票No.79、核専投票No.41、材専投票No.33にて各専門委員会のご意見伺いを実施した。合わせて6名の委員からご意見があった。材専投票でのご意見対応に対する原専メール審議が明日12/21に終了、可決されれば各専門委員会でのご意見伺いに関する審議を完了する。
- ② 各専門委員会からの意見を反映した修正案について規格委員会メール審議を提案する
本件に関して宮口核専長からは、前回の核融合専門委員会で議論を行った所、オリジナル提案よりも宮口核専長意見のカウンター提案に対する賛成が多かったことが報告され、書面投票を行うのであればカウンター提案も併記して貰いたいとの要望が示された。

協議の上、挙手による採決を実施し、材専意見対応に対する原専メール審議の可決を条件に内規修

正案に対する規格委員会書面投票を実施することを委員全員の賛成により承認した。

(6-8) 規格制定の手引きに関する御意見伺い (審議なし)【資料 88-11-8 欠番】

(6-9) 規格策定における誤記等チェックリストの導入について【資料 88-11-9】

鈴木幹事より、規格策定における誤記等チェックリストの導入について説明が行われた。内容は以下のとおり。

- ① 現在、規格制定の手引きの検討が行われている。この中に誤記等のチェックリストを添付し、チェックリストを手引化して導入を図ることとしたい。
- ② 日本電気協会原子力規格委員会において使用されているチェックリストを参照して原案を作成した。規格策定時に、各分科会レベルにおいて誤記防止チェックリスト、文章・用語チェックリストと2段階に分けてチェックを行うもので、誤記チェックの実効性を増すことを目的とする。
- ③ 本チェックリストについては、原子力専門委員会用語統一タスクにおいて確認のうえ、手引きの制定に合わせ導入することとしたい。

(6-10) 規格委員会運営規約改定に関する協議【資料 88-11-10】

規格委員会運営規約の改定に関し、「a. 機会学会体制への対応」「b. 誤記訂正要領の改定に伴う修正」「c. 投票意見対応システム運用への対応」の3つの観点から協議が行われた。

まず、加口委員長より、「a. 機械学会の体制変更に伴う運営規約の改定案」について、機械学会事務局との調整の状況について説明が行われた(資料 88-11-10-1)。内容は以下のとおり。

- ・理事会と発電用設備規格委員会の間にある標準・規程業務センターが2019/4に廃止される。これに伴い、事務局側より、委員会の名称を「発電用設備事業委員会」を変更すること及び現行運営規約の上位に「発電用設備事業委員会運営要領」を設置する案について、10月中旬に規格委員長宛レビュー依頼があった。
- ・これに対して、「委員会の名称は変更しない」「運営要領は設けず、現行の運営規約の改定で対応」することを10月末に回答し、合わせて運営規約の改訂案を提示した。
- ・基本方針は了解されたが、運営規約改定案については理事会側からコメントがつき、2019/1/15までに回答が必要である。

引き続き、原子力専門委員会 北条分科会委員より、「b. 誤記訂正要領(内規)の改定に伴う運営規約の改定」に関する2次書面投票における意見対応について説明があった(資料 88-11-10-2)。内容は以下のとおり。

- ・2名の反対者は1次投票から一貫して反対を主張されており、議論は平行線のままとまっている。
- ・1名あった保留意見については本提案とは別の内容である旨、お伝えした。

最後に、「c. 投票意見対応システム運用への対応」について、鈴木幹事及び事務局より説明が行われた(資料 88-11-10-3)。内容は、第9条2項(4)投票による決議の「p」として投票中の意見対応に関する条項を加えることで、投票意見対応システム運用の裏付けとする提案である。

協議の結果、挙手による採決を実施し、a, b, c 3項目の改定内容を一つの改訂案として集約の上、理事会にドラフトを提示するためのレビューをメール審議にて行うこと、その後、理事会から出されるコメントへの対応を加えて正式な書面投票を行うことが承認された。

主な意見、議論は以下のとおり。

- 規格委員会運営規約の改定は全て書面投票で行ってきた。スケジュール的に15日にならざるを得ないと思うが、1/15の理事会で出てくるコメントを合わせた最終提案に対して書面投票を行うべき。
- 内容の重要性、緊急性から見て学会体制変更の対応を優先して進めるべきではないか。他も加えるなら一つの改訂案としてまとめるべきである。→ 了解。3項目を集約する。
- 体制変更対応は、理事会側の当初案から見るとかなり譲歩されており、内容的には「落とし所」に近いものになっていると思う。

(6-11) 事例規格の出版に関する特別規定(内規)改定【資料 88-11-11】

用語統一タスク佐伯主査より、事例規格の出版に関する特別規定(内規)改定の提案説明が実施された。内容は以下のとおり。

- ① 目的：事例規格及び事例規格集について、実際の運用に合わせて内規の充実と見直し提案。
- ② 改定の内容：事例規格制定に合わせて事例規格集（適用年版一覧表）の見直しについて同時に審議することを明記し、制定フローを見直した。また事例規格集の記載例を追加した。
- ③ 審議経過：原専書面投票 No.518 で可決されたことを受け、規格委員会書面投票を提案する。
審議の結果、挙手による採決を実施し、30 日の書面投票を実施することが全員一致で承認された。

(6-12) 原専作成 委員会資料の取扱い（内規）改定【資料88-11-12】

用語統一タスク佐伯主査より、原子力専門委員会で作成された委員会資料の取り扱いに関する特別規定（内規）の提案説明が実施された。内容は以下のとおり

- ① 目的：委員会に参加したオブザーバあるいは開示を希望する第三者に委員会資料を渡す際の取扱いを規定し、転用等の不具合を抑制することがねらいである
- ③ 経緯：原案は誓約書を求める内容で格委員会書面投票 No. 242 として提案されたが、反対多数で否決された。今回の提案は、原専用語統一タスクにて、誓約書に替え、「事前に注意要領をホームページに掲載」「資料を渡す際に注意事項の書面を手渡す」内容に修正したものである。

議論の上、挙手による採決を実施し、「本提案から「原専で扱う資料」の限定を外した上で各専門委員会の承認を得ること」「その後、規格委員会での書面投票を行うこと」が 全員一致で承認された。

主な議論は以下のとおり。

- 原専で扱う資料に限定されているが、原専の内規ということか？ ➡ 原専で扱う資料に限定するが、規格委員会の内規である
- 内容的に原専に限定する必要はないので対象を広げてはどうか？ ➡ 第Ⅰステップとして原専対象に成立させた後、適用範囲を広げることを考えたものである
- 規格委員会として「原専の枠」を外して投票を行って、全ての専門委員会に実施してもらうことでよいと思うがどうか？ ➡ 過去に反対が多く否決された経緯もあるので各専門委員会の意見を聞いておくべきと考える

(6-13) 「発電用設備規格関連の材料事象に関する解説」の合本による出版について【資料88-11-13】

材料専門委員会 木村委員長より、発電用設備規格関連の材料事象に関する解説」を関連する発電規格と合本して出版する提案について説明があった。内容は以下のとおり。

- ① 本規格は最初の改定版として初版である 2014 年版同様、くるみ製本による単独での発行を準備中であり、定価 1 万円で 50 部の初回印刷を予定している。印刷部数は初版の販売実績を踏まえて設定したものである。
- ② 一方、本規格を必要とする潜在的ユーザーは設計・建設規格、材料規格等の購入者であるので、これらの規格の Non-mandatory Appendix として合本販売することで、より多くのユーザーに活用してもらうことが期待できる
- ③ 本体規格の Appendix とすることは技術的判断が必要であるが、独立した規格のままセット販売する方法なら、出版側の裁量で対応できると考えられる

議論の結果、本提案の具体化については先送りとなった。主な議論は以下のとおり。

- 設計・建設規格 2018 年追補版の発行に間に合わせてもらえるなら前向きに検討したい
- 追補同様にバインダーとじこみ用に「印刷＋ファイル穴」の形態にすれば価格も抑えられると思う ➡ 書籍として ISBN コードを取得した時点で 2 種類の価格を設定するのはできない。

(6-14) タスクグループ活動状況の確認【資料88-11-14】

規格委員会 高橋副委員長よりタスクグループ活動状況の確認に関する説明が行われた。規格委員会傘下のタスクについて担当者の指名が行われ、指定フォームにより状況を報告頂くことになった。

一般要求事項検討タスク：宮口委員

MDEP 規格整備方針検討タスク：宮口委員

LSSD 検討準備タスク：宮口委員

過酷事故対応タスク：(HP 上で終了を明記)

設計・建設規格英訳タスク：朝田主査

過酷事故時構造健全性評価タスク：(HP 上で終了を明記)

過酷事故時コンクリート製格納容器構造健全性評価タスク：上記と同時に終了

金属キャスク用アルミバスケット材料検討タスク：(HP 上で終了を明記)

金属キャスク用アルミバスケット材料検討タスク【フェーズ 2】：波木井委員

(6-15) 会議開催後のフォローアップについて【資料 88-11-15】

規格委員会 高橋副委員長より会議後のフォローアップに関する説明が行われた。内容は以下のとおり。

- ① 会議後のCSキャビネットへの資料・議事録のアップの徹底をお願いしたい
- ② 議事録については確定までの時間が長く、アクション事項のフォローができない。メール審議の活用を含めて承認までの時間短縮をお願いしたい。

議論の結果、各会の中で担当を設定するなどの方法で資料登録の確実に行うこと、議事録についてはメールによるレビュー等の手段により、会議終了後2週間を目途に議事録案を確定することを確認した。

主な議論は以下のとおり。

- CSキャビネットへの登録は所属先のセキュリティ上の問題等で実行が難しい場合がある➡ 参加メンバー中、誰かができれば十分。内部で担当を決めれば対応はできるはず
- 議事録の承認とアクションフォローは切り離して考えるべき。議事録を承認・確定するためにメール審議を行う必要はないと思う

(7) 発電用設備規格に関する審議

(7-1) 発電用火力設備規格に関する審議【資料 88-12】

火力専門委員会飯田副委員長及び同溶接分科会倉富幹事より、「第Ⅶ章 溶接施工法・溶接技量」について改訂内容の説明及び書面投票の提案が行われた。改訂内容は、参照する ASME Boiler & Pressure Vessel Code の年版変更、誤記修正、表現の見直し等である。

審議の上、挙手による採決を実施し、全員一致で書面投票の実施が承認された。

(7-2) 発電用原子力設備 材料規格に関する審議【資料 88-13】

材料分科会 山田主査より、材料規格に関する審議提案について説明があり、審議が行われた。内容は以下のとおり。

① 2019 年追補改訂案：記載の適正化【資料 88-13-1, 2】

審議の結果、挙手による採決を実施し、規格委員会書面投票の実施が全員一致で承認された。

② 材料規格へのASME材の取り込みに関する意見伺い【資料 88-13-3】

審議の上、挙手による採決を実施し、規格委員会メール審議にて意見伺いを行うことが全員一致で承認された。

(7-3) 発電用原子力設備 設計・建設 第Ⅱ編 高速炉規格に関する審議【資料 88-14】

高温規格分科会 鬼澤委員より高速炉規格に関して提案説明があり、審議が行われた。内容は以下のとおりである。

a 提案件名

- ① 改良 9 Cr- 1 Mo 鋼 時間依存型許容値の 50 万時間への拡張提案 (資料 88-14-2)
- ② 316 FR 鋼 時間依存型許容値の 50 万時間への拡張提案 (資料 88-14-3)

b 提案骨子

2 種の材料は、高速炉規格 2012 年版で高速炉規格材に加えられた。FBR 機器の設計耐用年数 60 年化に対応するため、30 万時間まで定義された時間依存型許容値を 50 万時間まで拡張することを提案する。

c 審議経過

時間依存型許容値拡張については高温規格分科会での審議後、2017/11 材料専門委員会にレビューを依頼し、2018/6 に妥当性について承認を受けた(資料 88-14-4-1,2 参照)。その後、材料専門委員会書面投票 No. 506 での可決、意見対応の終了を完了した(資料 88-14-4-3)。今回、規格委員会での書面投票を提案する。

審議の上、挙手による採決を行い、全員一致で規格委員会書面投票を実施することが承認された。

(7-4) 発電用原子力設備 設計・建設規格に関する審議【資料 88-15】

設計・建設分科会 朝田主査より設計・建設規格改定案に関する説明が行われた。内容は以下のとおり。

a 2012 年版全文チェックによる正誤表提案【資料 88-15-1】

審議の上、挙手による採決を実施し、原専メール審議の可決を条件に規格委員会メール審議を実施することが全員一致で承認された。

b 2019 年追補提案 その 1【資料 88-15-2】

以下の 6 項目について提案説明が行われた。

No. 1: DC16-29 中空ナット材に関する破壊靱性規定の明確化 (本文規定・解釈の追加)

No. 2: DC17-31 ボルト穴の寸法 (基準径をせん断力を受ける部分に変更)

No. 3: DC17-26 図 PMC3304-3 他 (ポンプ関連図の記載方法適正化)

No. 4: DC18-21 図 PMD3310-7 (ポンプ関連図の寸法規定適正化)

No. 5: DC18-22 図 PMB3310-3 他 (ポンプ関連図の記載方法適正化)

No. 6: DC18-26 表 PMB3210-1 (「膜+曲げ応力 等価直線部分」の用語適正化)、

議論の上、挙手による採決を実施し、以下の修正コメントを反映の上で、規格委員会書面投票を実施することが全員一致で承認された。

- ・メール審議の対象が別紙 1 の規格委員会での意見対応と別紙 2 の改定が編集上の修正であることを明記する。あとは参考資料とする。
- ・笠原委員の意見対応の①～⑦が別紙 3 のどの部分かの対応を明確にする。

c. DC14-002:「支持構造物設計への「極限解析手法」規定の追加」提案【資料 88-15-3】

「クラス 1 容器」と「炉心支持構造物」に適用されている極限解析手法を「クラス 1 支持構造物」に追加する提案に対し、第 74 回規格委員会 (2015/6) においてコメントが出され、継続審議となっていた。規格委員会メール審議 No. 40 として行われた意見伺いの結果を反映した修正案について説明が行われた。

審議の結果、挙手による採決を実施し、規格委員会メール審議を実施することが承認された。

d. 「設計・建設規格への地震荷重に対する許容基準の取込み方針」【資料 88-15-4】

現在の設計・建設規格では、地震荷重の算定と許容基準双方について JEAC4601 を準用している。しかし、弾塑性解析を採り入れて耐震評価を行う取込みを進める上では、地震荷重の許容基準を規格に取込む必要があるとして基本方針が策定された。同案については原専にて書面投票による意見伺いの結果について報告が行われ、前回規格委員会で先送りになった規格委書面投票によるご意見伺い実施が再度提案された。

審議の結果、挙手による採決を行い、全員一致で規格委員会書面投票によるご意見伺いを実施することが承認された。

主な議論は以下のとおり。

- 緊急性はあるのか、事業者のニーズは？ ➡ 緊急性は難しい。ニーズはメーカーにはあるが、事業者としては現行から変えることに否定的。耐震 JEAC はこれからエンドースが計画されているので、外乱を与えてほしくないという意見もある。
- ダブルスタンダードになる懸念がある。高度化 WG でもリスク評価の方に主眼を置いており、この案件は扱ってもらえないだろう。
- 対話の場はあった方がよいのでは？ ➡ 規格委員会から電気協会側にコンタクトしていただく必要がある。

- 弾塑性解析が主眼になっている。何がやりたいのか？ ➡ 地震荷重が厳しくなっていく中で高度化を検討する。その一つとして弾塑性解析がある。弾性解析の許容値の余裕についても検討できればよいが、R&D も必要なので言い出しにくいところ。
 - 取り込みに対して作業がたいへんなだけでメリットはあるのか？
- e. 2019 年追補提案 その 2 【資料 88-15-5】
- 以下の 4 項目について提案説明が行われた。
- No. 1: DC18-37 引用・参考文献年版見直し（材料規格等引用年版の改訂）
- No. 2: DC18-38 2019 年追補 事例規格集（各事例規格適用年版の見直し）
- No. 3: DC18-42 継手区分関連規定の見直し（溶接規格での継手区分関連規定の反映）
- No. 4: DC18-43 解説図 PVB2241-4, 5 タイトル改定（2012 年版全文チェック結果推奨事項の反映）
- 審議の結果、挙手による採決を実施し、原専での審議終了を条件に規格委員会書面投票を実施することが全員一致で承認された。
- (7-5) 発電用原子力設備 溶接規格に関する審議 【資料 88-16】
- 溶接分科会 杉江幹事より、溶接規格改定案に関する説明があり、審議が行われた。内容は以下のとおり。
- a. クラス 3 相当容器・配管の耐圧試験圧力改定案 意見対応 【資料 88-16-1】
- 本提案は規格委員会書面投票 No. 412 にて可決されたが、3 名から保留意見、1 名から参考意見があり、意見対応案について説明が行われた。
- 審議の上、挙手による採決を実施し、全員一致で意見対応が承認された。
- b. 2019 年追補 書面投票提案 【資料 88-16-2】
- 以下の 6 項目について提案説明が行われた。
- No. 1: W16-19-1 溶接施工法認証試験の確認項目（その 1）（項目順の体系化）
- No. 2: W16-19-1 溶接施工法認証試験の確認項目（その 2）（衝撃試験が必要な場合の項目を追加）
- No. 3: W17-07 同等と認められる溶接士の追加（JIS 規格及び火力設備技術基準との同等性を追記）
- No. 4: W18-04 JIS Z 2343-1 浸透探傷試験の適用年版（2017 年版制定を反映）
- No. 5: W18-06 事例規格集（事例規格 適用年版の見直し）
- 審議の上、挙手による採決を実施し、全員一致で規格委員会書面投票の実施が承認された。
- (7-6) 発電用原子力設備 維持規格に関する審議 【資料 88-17】
- 維持規格分科会 齋藤副主査、補修作業会 市川主査より、維持規格に関する説明が行われ、審議が行われた。内容は以下のとおり。
- 補修章の誤記に対して正誤表発行を提案する。引用文献の名称の後ろに【添付〇〇】等、審議資料でエビデンスを添付した際の記載が規格本文にそのまま記載されていたため、削除する。なお、発行準備中の 2018 年追補の出版原稿についても同様の修正を行う。
- 審議の結果、挙手による採決を行い、全員一致で正誤表の発行が承認された。
- (7-7) 使用済燃料貯蔵施設規格に関する審議：審議なし 【資料 88-18：欠番】
- (7-8) 弾塑性解析に基づく耐震 S クラス配管耐震設計代替規定案に関する審議 【資料 88-19】
- 森下委員及び設計・建設分科会 朝田主査より、弾塑性解析に基づく耐震 S クラス配管耐震設計代替規定案に関して説明があり、審議が行われた。内容は以下のとおり。
- ①規格委員会 2 次書面投票での意見対応 【資料 88-19-1】及びこれに伴う規格案の編集上の修正 【資料 88-19-2】について、挙手による承認を提案する。
- ②本案を設計・建設規格の事例規格として発行するため、事例規格案 【資料 88-19-3】と事例規格集改訂案 【資料 88-19-5】及びこれらの公衆審査計画 【資料 88-19-4】について、原専での審議終了を条件に規格委員会での書面投票を提案する。
- 審議の結果、挙手による採決を実施し、①、②の提案が全員一致で承認された。なお、採決に際し、反対意見の集約については規格委員会 3 役での対応を要望する意見があった。
- 主な議論は以下のとおり。

- 事例規格の中で、JEAC4601の年版を消しているのは問題ないか？⇒設計建設規格本文の中で、年版により対応するJEAC年版を明記している⇒了解
- 本件の2次投票での反対意見を、少数意見として規格に記載してはとの意見がある。まとめるのは大変かも知れないが。⇒記載文案は規格委員会で考えでるでは？⇒電気協会の例では、反対意見者が作成したドラフトを提案者が確認し、最終的に委員会3役が判断したと聞いている。ボリューム的にはA4×2枚程度。

(7-9) SA時構造健全性評価ガイドラインに関する審議（審議なし） 【資料88-20 欠番】

(7-10) 核融合設備規格に関する審議 【資料88-21】

核融合専門委員会角館委員より、規格委員会書面投票 No. 409（マグネット構造規格英訳版、「HIP 関連の新規追加分」とそれ以外の「編集上の修正分」の2件を含む）での意見対応案について説明が行われた。

審議の上、挙手による採決を実施し、全員一致で意見対応が承認された。

(8) 今後の予定

次回、次々回の発電用設備規格委員会の開催予定は以下のとおり。

- 第89回 発電用設備規格委員会：2019年 3月20日(木) 10:00～17:00 JSME 第1会議室
- 第90回 発電用設備規格委員会：2019年 6月19日(水) 10:00～17:00 JSME 第1会議室

以 上